

## 東山地域学校運営支援協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回東山地域学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和6年5月1日(水)午前11時から正午まで
- 3 開催場所 東山小学校多目的教室
- 4 出席者
  - (1) 委員 高橋勝男委員(会長)、吉田美和子委員(副会長)、佐藤美枝委員、安東正利委員、吉田進一委員、金里徹委員、小野寺二男委員、佐藤優委員、藤原洋委員、村上友善委員、鈴木正敏委員、松山幸男委員、畠山信禎委員
- ※ 欠席者 伊藤悟委員
- (2) 事務局 奥山由香東山小学校副校長 村上花恵東山中学校副校長
- 5 議題
  - (1) 東山地域学校運営支援協議会について
  - (2) 令和6年度東山小学校学校運営について
  - (3) 令和6年度東山中学校学校運営について
  - (4) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人
- 8 議事内容
  - (1) 東山地域学校運営支援協議会について  
小学校長から東山地域学校運営支援協議会の説明をした。全会一致で承認された。  
以下、質疑応答。  
委員 会議は年にどのぐらいの頻度で開催されるのか。  
事務局 会議は年3回。1回目と3回目は小学校で、2回目は中学校で開催する。
  - (2) 令和6年度東山小学校運営について  
小学校長から、令和6年度学校運営の基本方針を説明した。以下質疑応答。  
委員 東山小学校のこぼ・LD通級の生徒はどのくらいいるのか。どのような形で通級しているのか。  
委員(小学校長) 本校は自校通級のみで、こぼ14名、LD14名。発達検査を実施し支援が必要と認められた子どもが国語と算数の時間に個別指導を受けている。
  - (3) 令和6年度東山中学校学校運営について  
中学校長から、令和6年度学校運営の基本方針を説明した。以下意見等。  
委員 市ではキャリア教育に力を入れているが、今年度も5日間の職業体験をする予定なのか。  
委員(中学校長) 地域に貢献できる人材を育成するため、今年度も7月1日から5日まで実施予定。現在、お世話になる事業所と連絡を取り、生徒を振り分けているところ。

委員 もっと読書をして欲しい。取組はどのようになっているのか。

委員（小学校長） 市の図書普及員が週2回来校し、図書室の環境整備などをして  
いる。やまゆり号を月3回利用。学年で目標冊数を決め、読書習慣作りに取り  
組んでいる。

委員（中学校長） 本校でも図書普及員に協力を得て図書室のレイアウトを工夫し  
読書環境を整えている。生徒には、朝読書の時間を10分間確保し読書を進めて  
いる。

委員 毎月第4金曜日の朝、挨拶運動をしている。ここ何年も継続しているが、他  
地域から東山の子どもたちは挨拶ができるという話を聞いて嬉しい。

委員（小学校長） 一方で、家庭でも学校でもない地域の人への挨拶が課題となっ  
ている。

委員 児童クラブでは、黙って入ってくる子が多い。挨拶や返事をしてくれない。

委員 顔見知りの子からは挨拶が返ってくる。地域の人の方から話しかけるのもよ  
いのではないか。

委員 今はスクールバス通学で、地域の人に会わないことが多い。私たち大人も気  
軽に子どもたちに声を掛けることが大事。

委員（中学校長） 中学生は思春期もあり、その日によって気分が違うことがあ  
る。挨拶の姿も生徒理解として捉えている。教師側から声を掛け続けることで  
やがて心を開く一歩となると考えている。

#### (4) その他

昨年度の活動を踏まえて、今年度の学校運営支援について意見を交換した。

委員 学校に集まることだけでなく、地域にいて支援することも必要。地域も関わ  
ろうとしているが、子どもたちが地域と関わる機会が少ない。町内で関わる  
機会を作ることが学校運営を盛り上げていくことにもなるのではないか。

委員 一関の新しい踊りを高齢者だけでなく子どもたちも踊ってはどうか。

委員（小学校長） 運動会に地域と密着したものを取り入れ、カリキュラムに合致  
させることも今後検討したい。可能であれば婦人会等に踊りを教えてもらいた  
い。

委員 一関の新しい踊りは、会議所で名称を募集していた。中学生の楽器を取り入  
れようか。PRして知ってもらいたい。

委員（中学校長） 唐梅館絵巻は3年生のみ参加しているが1年生と2年生も関わ  
れないか。以前は先生方も参加していた。校長は馬に乗っていた。

委員 学校支援ボランティアの在り方について、コーディネーターと声がけをして  
きたが、人口減少でなり手がいない。地域だけでなくPTAにも頼めないのか  
という意見もあった。

委員 地域の人が学校支援ボランティアについてよく知らないから入れないのでは  
ないか。PTAだけでなく地域の人も、目標はあくまでも子どもたちのサポー  
トであることからぶれないでいきたい。

委員 広報紙等で学校支援について地域の方に知らせていくことも必要。

委員 地域の方が自分の得意なことを教えるため、積極的に学校へ足を運んでもらえるようなキャッチコピーを考えてはどうか。

委員 ボランティアの募り方も、子どもたちからお父さんお母さんへ、家のおじいさんやおばあさんへと広げてみてはどうか。

委員 地域と学校の繋がりについて話す機会が少ない。PTAの代も地域との関わりが少ない。PTAができないから地域団体というように、頼んで終わりではなく、初めにこんなことをすると説明を受けてから進めたい。

委員 一方通行な感じがある。サポートをしてもらった子どもたちがどんなふうにしたのかが大事。その都度感謝の言葉があれば嬉しい。

委員 マンパワーの不足を補うボランティアだけではなく、お互いを通じて輪を広げられるようにしたい。伝え方を含めて、全体的に広く協力を得られるように周知活動をしていきたい。

委員 今回の学校運営支援協議会、2回目、3回目と、これから皆さんと意見を交換しながら方向性、支援の形作りを進めていく。

9 担当 一関市立東山小学校 電話 47-2144